



金谷川小だより

かなやがわ小フランドの創造

令和3年 9月15日

No.17

児童数 75名

校長 宍戸 与一

「正しく恐れる, しっかり対策を実践していく」 継続していきます。

「まん延防止等重点措置」及び「福島県非常事態宣言」が9月30日(木)まで延長されました。

学校では引き続き感染対策を強化しながら教育活動を進めてまいります。校内で陽性者が発生した場合に、感染拡大を最小限にできるよう、複数学年での活動・縦割り活動等を停止しています。

【校内で陽性者が発生した際、検査対象の範囲が拡大したケース】

- ・学年合同体育を実施していた場合
- ・縦割り活動等、複数学年での活動を実施していた場合
- ・身体的距離が十分に確保されていない場合
- ・身体的距離が確保されていても、マスク着用が不十分だった場合
- ・給食時の黙食が徹底されていない場合

発熱やけん怠感、喉の違和感など普段と体調が少しでも異なる場合には、無理をせず登校を見合わせ医療機関等を受診するようにお願いします。また、ご家族の方で同様な症状がある場合にもご家庭で経過を見てください。教職員も同様の勤務対応をしていきます。

政府や教育委員会も、不織布マスクを推奨しています。先日は、市教育委員会から不織布マスクの配布がありました。「デルタ株」は子どもにも感染が広がっています。不織布マスクの着用、ご協力よろしくお願いします。



雑感

東京2020オリンピック・パラリンピックが終わりました。

メダルラッシュに沸いた大会後はメダリストたちが各種メディアに取り上げられ、称賛を浴びています。テレビ番組で選手たちからこれまでの苦労や裏話などが披露されると、学ぶことも多いと感じます。

一方でふと思うことがありました。日本選手団のメダル獲得数は過去最高ですが、多くの選手はメダルを獲得していません。彼らの多くは、メダリストのような脚光を浴びることができません。それでも「オリンピック」の称号を得られますが、出場を目指したもののかなわなかった選手はさらに膨大な人数がいます。

だからこそ、メダル獲得は貴重なことで称賛に値するわけですが、脚光の傍らには、努力が願った形ではかなわなかった人たちがいること、しかしながらその努力は、貴重さにおいてメダリストたちに劣るものではないであろうことにも思いをはせたいものです。

学校生活で子どもたちに活躍がみられた時、惜しみなく称えあうことはとても大切です。一方、その時にスポットが当たっていない人がいるかもしれないということを考えられるようにしてほしいし、指導する我々が何より心がけていきたいと思うのです。

